

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に基づく

栄町教育委員会の点検・評価報告書

(令和5年度対象)



栄町教育委員会

令和6年11月

1 はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しなければならないこととされています。また、第2項では点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとしてされています。栄町教育委員会では法の趣旨に則し、課題や方向性を明らかにし、より効果的な教育行政の推進のため、学識経験者からの意見を受け報告書にまとめ、町議会に提出するとともに、それを公表し説明責任を果たすものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

1 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

栄町教育委員会委員名簿

職 名	氏 名
教 育 長	藤 ケ 崎 功
教育長職務代理者	中 島 宣 行
委 員	大 久 保 雅 從
委 員	濱 田 香 奈
委 員	安 永 順 子

2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月1回「定例会」、必要に応じて「臨時会」を開催しています。また、教育委員会の所管事項について調査研究等を要するものがある場合に、「委員協議会」を開催する他、教育委員会各課と議題に係る情報共有を図るため「勉強会」を開催しています。

・教育委員会会議 定例会 12回 ・臨時会 1回 ・委員協議会 2回 ・勉強会 4回

「栄町教育委員会行政組織規則」第7条に基づき、次のとおり審議を行いました。また、定例会・臨時会において委員報告や各所管課等の行事等報告を行いました。

(1) 審議内容一覧

内 容	件 数
教育行政の運営に関する基本方針を定めること	2
教育委員会規則その他教育委員会の定める規程を制定し、又は改廃すること	7
予算その他議会の議決を要する議案について町長に意見を申し出ること	6
教育機関の施設の整備計画を定めること	3
県費負担教職員の任免その他の進退に関する内申に関すること	1
職員の分限及び懲戒の処分を行うこと	1
課長及び教育機関の長を任免すること	1
附属機関の委員を任命し、又は委嘱すること	4

教育功労者を表彰すること	1
教科書その他の教材の取扱いの方針を定めること	1
教科用図書の採択に関すること	3
職員団体との重要な交渉に関すること	1
教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関すること	1
県費負担教職員の人事異動方針を定めること	1
重要又は異例に属する事項	1 5

(2) 議決事項一覧

4 月	・ 栄町通学区審議会条例の一部を改正する条例について ・ 令和 6 年度使用教科用図書の取扱い方針（案）について ・ 令和 5 年度教科用図書印旛採択地区協議会委員について ・ 令和 5 年度教科用図書印旛採択地区協議会専門調査員会調査員候補者の推薦について ・ 令和 5 年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について
5 月	・ 令和 5 年度栄町一般会計教育費補正予算第 3 号について ・ 栄町学校給食センターの管理運営に関する規則の一部を改正する規則について ・ 栄町教育支援委員会委員の委嘱について ・ 令和 5 年度準要保護生徒の追加認定について

6月	・令和5年度準要保護生徒の認定変更について
7月	・栄町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則について ・宝くじ文化公演事業「宝くじまちの音楽会」について ・令和6年度使用教科用図書の採択について
8月	・令和5年度栄町一般会計教育費補正予算第5号について ・栄町立小学校及び中学校管理規則の一部を改正する規則について ・栄町成人式の名称変更について
9月	・栄町いじめ防止基本方針の一部改訂について
10月	・令和5年度栄町社会教育団体の認定について ・栄町学校給食センター運営協議会委員の委嘱について ・令和5年度末及び令和6年度栄町立学校職員人事異動方針（案）について
11月	・栄町教育委員会の点検・評価報告書（案）について ・令和5年度栄町一般会計教育費補正予算第7号について
12月	・議決事項なし
1月	・職員の懲戒処分について ・いじめ重大事態について
2月 (臨時会)	・令和5年度栄町一般会計教育費補正予算第9号について ・令和6年度栄町一般会計教育費当初予算について ・給食センター用地の検討について
2月	・いじめ重大事態について
3月	・栄町就学援助費支給規則の制定について ・栄町部活動地域移行推進協議会設置要綱について ・栄町部活動指導員活用事業実施要綱について ・栄町教育長交際費の支出状況の公表に関する要綱について ・栄町教育長交際費支出基準の一部改正について ・栄町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則について

	・ 栄町立小学校及び中学校管理規則の一部を改正する規則について ・ 栄町立学校職員服務規程の一部を改正する訓令について ・ 令和6年度栄町学校教育プラン（案）について ・ 栄町学校施設の個別施設計画の一部改正について ・ ふれあいプラザさかえ個別施設計画の一部改正について ・ スポーツ施設個別施設計画の一部改正について ・ 附属機関委員の委嘱について（2件） ・ 令和6年度栄町社会教育関係団体の認定について ・ 栄町教職員組合の要望について ・ 教育功労者の感謝状について ・ 栄町教育委員会事務局職員（課長職）の任免について ・ 令和5年度末教職員人事異動について ・ いじめ重大重大事態について
--	---

3 総合教育会議の開催状況（地方教育行政の組織及び運営に関する法律）

・ 第1回栄町総合教育会議

令和5年7月28日 議題：「いじめ重大事態」に係る報告事項及び今後の対応について

・ 第2回栄町総合会議

令和5年12月20日 議題：教員アシスタント職員活用事業について

目 次

- 1 点検・評価の対象 P 1
- 2 点検・評価の方法 P 1
- 3 点検・評価の結果 P 1
- 4 施策評価シート P 2 ～ P 2 7
- 5 学識経験者の意見 P 2 8 ～ P 3 1
- 6 学識経験者の意見を踏まえた今後の取組について P 3 1 ～ 3 5
- 7 本町教育行政が取組む方向について P 3 6 ～ 3 7

1 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、「栄町教育方針」を実現するため、令和5年度の重点的な取組として実施した、「特色ある学校づくりの支援」「きめ細かな学校教育の推進」「学力向上の推進」「教育行政の推進」「教職員の働き方改革の推進」「教育施設の充実」「給食施設の充実」「ICT教育及びICT化の推進」「生涯学習機会の充実」「地域教育力の充実」「生涯学習施設の充実」「スポーツ環境づくりの推進」「芸術文化活動の支援」「文化財等の保護と活用」の14の施策について点検・評価しました。

2 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、教育委員会事務局で作成した「施策評価シート」により自己評価を実施しました。評価は、施策全体の取組状況（達成度）について【目標を達成A 目標をほぼ達成B 目標に達成していないC 判定できないD】4段階で実績・成果・課題を記述し、評価する方法で行いました。

なお、客観性を一層高めるため、教育に関し学識経験を有する方に取組状況を説明し、基本方針ごとの自己評価に対する学識経験者からの意見をいただきました。ご意見をいただいた方々は、次のとおりです。

（敬称略）氏 名 中澤 一夫 （団体役員） 氏 名 弘海 千鶴 （元栄町教育委員）

3 点検・評価の結果

施策評価シートにより、点検評価を実施しています。

《目標に対する達成状況 14施策の結果》

目 標 を 達 成 A・・・7施策 目 標 を ほ ぼ 達 成 B・・・・5施策

目標に達成していない C・・・2施策 現時点で判定できない D・・・・0施策

4 施策評価シート

【基本方針（Ⅰ） みんなが一体となって栄っこを育成する教育を推進します。】

創意と活力のある教育活動の中で，基礎・基本の習得及び思考力・判断力・表現力の育成，並びに望ましい勤労観・職業観の育成を図るキャリア教育を充実させ，個性を活かすきめ細やかな学校教育を推進します。

< 施 策 名 >

- | | |
|----------------|---------------|
| ・ 特色ある学校づくりの支援 | P 4 ～ P 5 |
| ・ きめ細かな学校教育の推進 | P 6 ～ P 7 |
| ・ 学力向上の推進 | P 8 ～ P 9 |
| ・ 教育行政の推進 | P 1 0 ～ P 1 1 |
| ・ 教職員の働き方改革の推進 | P 1 2 ～ P 1 3 |

【基本方針（Ⅱ） 子どもたちが良好な環境で学習できる施設整備を推進します。】

安全で安心な教育環境を確保するために教育施設等の修繕や改修等の整備を推進していきます。また、情報教育時代にあった I C T 設備の設置等 I C T 環境の整備を推進していきます。

< 施 策 名 >

- | | |
|-------------------------|-------|
| ・ 教育施設の充実 | P 1 4 |
| ・ 給食施設の充実 | P 1 5 |
| ・ I C T 教育及び I C T 化の推進 | P 1 6 |

【基本方針（Ⅲ） 生きがいが育める学習やスポーツ環境づくりを推進します。】

生涯学習やスポーツを通じて、心身ともに健康で生きがいのある生活と心のかよう地域社会をつくるとともに、地域の教育力を活かした子どもたちの健全育成を推進します。

＜施 策 名＞

- | | |
|---------------|---------------|
| ・生涯学習機会の充実 | P 1 8 ～ P 1 9 |
| ・地域教育力の充実 | P 2 0 |
| ・生涯学習施設の充実 | P 2 1 |
| ・スポーツ環境づくりの推進 | P 2 2 ～ P 2 3 |

【基本方針（Ⅳ） 地域に根ざした芸術・文化の育成と文化財等の保護・活用を図ります。】

地域に根ざした芸術・文化の育成と文化財等の保護・活用を図り、個性豊かで潤いのある地域文化の醸成を推進します。

＜施 策 名＞

- | | |
|-------------|---------------|
| ・芸術文化活動への支援 | P 2 4 ～ P 2 5 |
| ・文化財等の保護と活用 | P 2 6 ～ P 2 7 |

【教育課・生涯学習課】 6-1-1 特色ある学校づくりの支援									
＜目指す成果＞		望ましい学校教育のために、保護者や地域住民が学校運営に参加することにより、各小・中学校ごとの特色ある学校づくりが推進されている。							
施策名 (施策番号)	成果目標						令和5年度 事業内容		
	成果指標	R3 現状値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	主要事業	事業概要	主な活動実績
特色ある学校 づくりの支援 6-1-1	わくわくドラム参加者数	233人	350人	350人	350人	350人	ゲストティー チャー活用事業	地域や地域企業の人材育成を小学校の地域学習や中学校の総合的な学習に講師として活用することでキャリア教育の充実を図ります。	○安食小(ドラ豆づくり体験、昔の遊び体験、地域見学等) ○布鎌小(田植え体験、ドラ豆づくり体験ザリガニ釣り、相撲講習等) ○安食台小(イチゴ栽培見学、和太鼓指導、外国生活体験談等) ○竜角寺台小(環境美化応援隊、学習支援応援隊等) ○栄中学校(職業人に聞く会) 「JALお仕事講座「空育®」の実施(1年生バックヤード見学、2年生職業人講話)
	○サタデーわくドラ・サマーわくドラ・ウィンターわくドラの参加者総数		R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値			
			329人 (94.0%)				わくわくドラム推 進事業	児童生徒の基礎学力と学習意欲向上のため、教材の精選・参加方法の工夫により、児童生徒の参加を促すとともに、開催日数の増加等充実した取り組みを実施します。	○サタデーわくドラ(5月下旬から2月中旬にかけて全13回実施。15回実施計画だったが、荒天により2回中止となった) 小学生50名(11名減)、中学生22名(10名増) 学習支援ボランティア113名(40名増) ○サマーわくドラ(夏季休業中に13回実施) 小学生143名(8名減)、中学生16名(4名減) 学習支援ボランティア102名(増減0) ○ウィンターわくドラ(冬季休業中に2回実施。中3特別わくドラ4回実施) 小学生78名(8名増)、中学生20名(14名増) 学習支援ボランティア66名(8名増)
	保護者へのアンケート	—	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値			
	○保護者や地域住民が参画した「特色ある学校づくり」を推進していると感じた割合		60%	70%	75%	80%	栄っ子宣言の推 進	次代を担う青少年の健全育成を図るため、新1年生や転入生への「栄っこ宣言」クリアファイルの配布や、学校行事での唱和を推進するとともに、町内の中学生を海外に派遣します。	4小学校に入学した新小学校1年生108名に「栄っこ宣言」クリアファイルを配付。 町内全小中学校が、入学式・卒業式の開式前に栄っこ宣言を唱和。 小学校では、始業式や終業式でも唱和を行っている。
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値			
			84% (140%)				中学生海外派遣 事業	語学体験とホームステイ体験を行い、国際理解教育の推進を図るために町内の中学生を海外に派遣します。	○中学生の海外派遣(オーストラリアメルボルン) 8月17日～25日 7泊8日 参加者:引率職員2名、生徒14名 事前研修:6月9日～8月16日 全13回 結団式(栄町役場大会議室):7月28日 事後研修(報告書作成、報告会準備)8月28日～9月27日 報告会(日本食研ホールディングス(株)千葉本社):9月28日 ○海外学校との交流事業 竜角寺台小学校と台湾小学生交流事業:6月9日 栄中学校とインドネシア中学生交流事業:10月17日
	施策の達成度		A						
	予算額(千円)		7,276				コミュニティ・ス クール事業	保護者や地域の住民などが一定の権限をもって各学校の運営及び当該運営への必要な支援に関して協議する学校運営協議会を運営します。	学校・家庭・地域連携推進事業費補助金を活用し、各種学校・地域との協働活動に取り組んだ。 ○学校運営協議会の開催 栄中学校(4回) 安食小学校(3回) 布鎌小学校(3回) 安食台小学校(4回) 竜角寺台小学校(3回) ○計画書作成(各校) ○実績書作成・評価(各校)
	決算額(千円)		7,154						

	施策の達成度評価・理由	・わくわくドラム推進事業は、目標値350人には到達しなかったが令和4年度の参加者数320人から9人増となった。目標値に対して94%の達成度であることから目標をほぼ達成したと評価した。中学生は増加傾向にあるが、小学生の希望者がサタデー、サマーで減少している。 ・年度末の保護者に対する学校評価アンケートでは「特色ある学校づくりが推進されている」という項目に対して84%の肯定的な回答を得た。目標値60%に対して24ポイント上回ることができたことから目標を達成したと評価した。各学校が、ゲストティーチャーを活用し、地域特性を活かした教育活動を展開した成果であると考えられる。 以上のことから、施策の達成度として「A:目標を達成」と評価した。
	今後の課題	・ゲストティーチャー活用事業は、地域の特性を活かした取組が各校で実践されている。今後は、栄町の特産物(米・ドラ豆・イチゴ等)の栽培・収穫に係る体験活動や学校を支える地域の方々とのふれあいを推進するとともに、キャリア教育の視点を取り入れながら「空港周辺地域」の特徴を生かした栄町ならではの学習活動を通して町の魅力を感じ取れる学習としていく。 ・わくわくドラム推進事業は、学校における学習の補完を主な目的として実施している。参加する児童生徒に対し、目的や目標をより明確にして参加しやすいように学習の内容や方法の検討が必要である。また、他の施策と連携を図る取組を検討していく。 ・中学生海外派遣事業は、物価高騰等の影響による保護者および町財政負担の増により中止とした。その代替として、現在実施している英語検定助成事業、ALT派遣事業、海外学校との交流事業を充実させ国際理解教育、外国語教育の拡充を図っていく。
	今後の取組	・わくわくドラム事業を社会教育として明確に位置付け、令和6年度から生涯学習課に事務移管をする。学習内容については、学校教育との関連もあることから生涯学習課と連携してより多くの児童生徒がわくわくドラム事業に興味関心を持ち、参加できるように協力していく。長期休業中に実施するサマー、ウインターについて地域の教職経験者や町雇用のALTの協力を受け「数学や英語」に特化した講座の開設を計画していく。 ・「特色ある学校づくり」を推進していくために、令和5年度に設置した「学校運営協議会」制度を活用し、地域住民が学校経営に参画、協力できる体制を確立し「地域全体で作り上げる学校」を目指していく。 ・現在行っている「英語検定助成事業」を令和7年度から小学生に拡大できるよう計画し、「英語力の向上」を通して国際理解教育や外国語教育の推進を図っていくとともに、オンラインによる海外学校との交流授業や海外学校の訪日旅行による交流事業を充実させ国際理解教育、外国語教育の拡充を図っていく。

【教育課】 6－1－2 きめ細かな学校教育の推進									
＜目指す成果＞		一人一人の個性を活かす教育を充実することによって豊かな心を持ち、社会の変化に対応するたくましく生きる児童生徒を育成することができている。							
施策名 (施策番号)	成果目標						令和5年度 事業内容		
	成果指標	R3 現状値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	主要事業	事業概要	主な活動実績
きめ細かな学校教育の推進 6－1－2	教職員へのアンケート ○児童生徒と向きあう時間を確保できていると思う教員の割合	81%	100%	100%	100%	100%	不登校相談・支援推進事業	教育相談員を配置するとともに、各小学校へスクールカウンセラーを派遣します。また、教育支援センターに指導員及び学校適応専門官を配置し、不登校等の相談支援事業を推進します。	教育支援センターに学校適応専門官1名、相談員を1名配置し、学校に足が向かない児童生徒の学習支援や生活支援を行った。また、教育相談員1名を、週当たり2日間雇用し、困り感のある児童生徒や保護者相談を担当し、個々の課題の支援を行った。また、各小学校に月1回スクールカウンセラーを配置し、児童・保護者のカウンセリングを行った。
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値			
			95%				個に応じた授業を推進するための教員の配置	個に応じた授業を推進するため、各学校に教員の資格を持つ学校支援教員を配置するとともに、特別に配慮が必要な児童生徒に対し、介助員等を配置します。	○学校支援員・学習サポーター等の配置 学校支援教員を4小学校に計7名を配置し、個の特性に応じた学習支援を行った。 安食小(2名)、布鎌小(2名)、安食台小(2名)、竜角寺台小(1名)。特別支援学級の児童生徒数に応じて、介助員を3小学校に計6名、中学校に2名配置し、個の特性に応じた教育支援を行った。 安食小(2名)、安食台小(2名)、竜角寺台小(2名)、栄中(2名)
	教職員へのアンケート ○教員アシスタント職員が働き方改革に貢献できていると思う割合	99%	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値			
			100%	100%	100%	100%	読書活動支援の充実	児童生徒の読書活動を支援するため、学校図書館図書標準に基づく蔵書数の適正管理を行うとともに、各小中学校へ図書館司書を配置します。	○学校図書館司書の配置 全ての小中学校に学校図書館司書を週2日間配置し、蔵書整理や蔵書点検等の蔵書管理および図書館環境の整備を行った。また、図書担当教諭と連携して、国語科の授業での読み聞かせ等読書教育の推進に取り組んだ。 ・令和5年度の各小中学校の貸し出し図書数は、安食小13,000冊、布鎌小3,890冊、安食台小16,305冊、竜角寺台小9,226冊、栄中480冊
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値			
	児童生徒への到達度アンケート ○学校生活アンケートによる自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	小60% 中76%	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	教員アシスタント職員活用事業	教員が児童生徒と向き合う時間を確保するとともに、教員の長時間勤務環境を是正し働き方改革を進めるため、資料印刷や集金業務、給食配膳補助などの教員の業務補助を行う教員アシスタント職員を配置します。	教員が児童生徒と向き合う時間を確保するため、教員アシスタント教員を全校に配置(5校8名)し、配布文書や学習プリントの印刷、集金業務等のサポートを行うことで、教職員が児童生徒への個別対応や授業準備・教材研究等の時間を確保した。 安食小(2名)、布鎌小(1名)、安食台小(2名)、竜角寺台小(1名)、栄中(2名)
			小80% 中80%	小85% 中85%	小90% 中90%	小95% 中95%			
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値			
	施策の達成度	B	小88% (110%) 中72% (90%)						
	予算額(千円)		39,626						
	決算額(千円)		38,466						

	施策の達成度評価・理由	・「児童生徒と向き合う時間が確保できているか」について、年度末の教職員アンケートでは、目標値100%に対して、95%の肯定的回答を得た。また、「教員アシスタント職員が働き方改革に貢献できているか」については、目標値100%に対して95%の教職員から肯定的な回答を得た。 ・「自分によいところがあると思うか」について、年度末の児童生徒学校評価アンケートでは、小学生の目標値80%に対して肯定的回答が88%と目標値を8ポイント上回った。中学生では目標値80%に対し、肯定的回答が72%と目標値を8ポイント下回った。 いずれの成果指標についても目標値に対して80%以上の達成率となるので施策全体としての達成度を「B: 目標をほぼ達成」と評価した。
	今後の課題	・不登校は、全国的に増加傾向にあり栄町でもその傾向は同様にみられる。しかし、学校適応専門官や相談員、教育支援センターの開設により、不登校児童生徒や家庭が学校や学級担任との繋がり・連携をはかることができ、欠席数が減少したり、学校や学級担任との連携を深めたりする中で、不登校の改善傾向が見られる児童生徒は増えている。 ・学習や生活に困り感のある児童生徒に対して学校支援員や介助員を計画的に配置し、児童生徒の支援に努めているが年々必要とされる児童生徒数は増加の傾向があり、適正な人員配置が大きな課題である。 ・各学校では、教員アシスタント職員の効果的な活用に工夫が見られ、児童生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教職員が増加していることは大きな成果である。「アシスタント職員が働き方改革に貢献できていない」と回答する教職員は0%であることから「どちらかといえばできていない」と回答する5%の教職員の意見を聴取し、より効果的な活用の調査研究が必要である。
	今後の取組	・施策全体としては、どの項目も「B: 目標をほぼ達成」と評価できるが「A: 目標を達成」と評価できた項目が少ないことは課題である。それぞれの事業の実施内容や方法を検証し、より効果的な活用について調査研究を進めていく必要がある。 ・不登校対策として、「ケース会議」の充実を図っていく。学校適応専門官を学校に派遣しケース会議の持ち方などをレクチャーし、組織的な不登校対応を支援していく。 ・課題や困り感のある児童生徒への対応は、充実した学校生活の保障という側面からも重要である。学校支援教員や介助員の適正配置については、予算等の関係もあることから関係部局と協議を進めていく。 ・教員アシスタント職員のより効果的な活用については、現場の教職員からの声を聞き取り、各学校の取り組みをフィードバックすることで活用の充実を図っていく。

【教育課】 6ー1ー3 学力向上の推進										
＜目指す成果＞		基礎・基本を定着させ、思考力・判断力・表現力を伸ばす教育が充実することによって、グローバル化等、社会の変化に主体的に対応できる人材を育成することができている。								
施策名 (施策番号)	成果目標						令和5年度 事業内容			
	成 果 指 標	R3 現状値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	主要事業	事業概要	主な活動実績	
学力向上の推進 6ー1ー3	県標準学力テストの県平均を上回った各学年教科数の割合 ○県標準学力テストの県平均を上回った各学年教科数の割合	64%		70%	75%	80%	85%	わくわくドラム推進事業	児童生徒の基礎学力と学習意欲向上のため、教材の精選・参加方法の工夫により、児童生徒の参加を促すとともに、開催日数の増加等充実した取り組みを実施します。	○サタデーわくドラ(5月下旬から2月中旬にかけて全13回実施。15回実施計画だったが、荒天により2回中止となった) 小学生50名(11名減)、中学生22名(10名増) 学習支援ボランティア113名(40名増) ○サマーわくドラ(夏季休業中に13回実施) 小学生143名(8名減)、中学生16名(4名減) 学習支援ボランティア102名(増減0) ○ウインターわくドラ(冬季休業中に2回実施。中3特別わくドラ4回実施) 小学生78名(8名増)、中学生20名(14名増) 学習支援ボランティア66名(8名増)
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値				
			35% (50%)							
	家庭学習に毎日取り組む児童生徒の割合 ○学校生活アンケートによる学校の勉強以外に勉強をしている児童の割合	小79% 中83%	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	外国語教育推進事業	学習指導要領に沿った英語科・外国語科・外国語活動学習の充実に取り組む他、小中学校の授業全てにALTを配置します。	令和5年8月にALTを1名増員し、計4名を雇用した。 小学校2校に1名ずつと中学校に2名を配置し、小学校5、6年生の外国語と中学校全学年の英語科の授業が、担当教諭とALTの2名によるティームティーチングの実施が可能となった。	
			小85% 中85%	小90% 中90%	小95% 中95%	小95% 中95%				
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値				
			小86% (101%) 中79% (92.4%)							
	施策の達成度			C						
	予算額(千円)			39,626						
	決算額(千円)			38,466						

	施策の達成度評価・理由	・県標準学力テストの県平均を上回った教科の割合は、35%と目標としている70%から35ポイントマイナスとなり、達成率も50%で「目標を達成できていない」と評価した。 ・「家で毎日家庭学習に取り組んでいるか」について、年度末の児童生徒学校評価アンケートでは、小学生の目標値85%に対して肯定的回答が86%と目標値を1ポイント上回った。中学生では目標値85%に対し、肯定的回答が79%と目標値を6ポイント下回った。 以上のことから、県標準学力テストの県平均を上回った教科の割合が大きく下回ったことから、施策全体としては「C：目標に達成していない」と評価した。
	今後の課題	・千葉県標準学力テストの結果を見ると、県平均点を上回る学年教科数が35%と目標値を大きく下回り、昨年度より9ポイント減少した。 ・算数・数学で、令和4年度に比較し平均値の差が広がった学年教科数が12/26とその割合が高かった。算数・数学科においては、学習した内容の確実な定着が大きな課題である。 ・国語科においては、県平均を上回るもしくは昨年度に比較し平均値が県平均に近づいた学年教科数が13/26と向上の兆しが見られた。 ・全体としても県平均を上回りその差が大きくなったり、県平均には届かなかったがその差が少なくなった学年教科数は、32/84(38.1%)と学力が向上している様子がうかがえる。 ・回答の傾向として、「書くこと」の得点率が高いことから、小中連携プロジェクトで「自分の言葉でまとめを書く」という取り組みが語彙力や表現力(書く力)の向上に結び付いたと考える。語彙力や表現力が向上しているが、得点に結びつけることができていないことから「習得した基礎基本の定着」や「じっくりと問いを読み込み適切に回答する」などに課題があると考えられる。
	今後の取組	・どの教科においても「基礎基本の定着」が大きな課題である。ICTを活用した授業づくりは、児童生徒の興味関心を引き出し、効果的であることは実証されている。本町でもICTを活用した授業実践の数は年々増加し、活用することについては日常的になってきた。今後は、校長会議や教頭会議、情報教育担当者会議、小中連携プロジェクトを通して、より効果的な活用の実践例を共有し、学力向上に向けた取組を全町的に広げていくことができる仕組みを構築していく。 ・学力向上と児童生徒の基本的な生活習慣の確立は大きな関連性がある。「早寝早起き、朝ご飯」などの生活習慣について、家庭への協力依頼や家庭教育学級等を通じて保護者への啓発活動に取り組んでいく。

【教育課・給食センター】 6-1-4 教育行政の推進

＜目指す成果＞

児童生徒へ学校生活に必要な援助や、健康面における支援を行うことにより、安心して学校生活が送れるようになっている。

施策名 (施策番号)	成果目標						令和5年度 事業内容		
	成 果 指 標	R3 現状値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	主要事業	事業概要	主な活動実績
教育行政の推進 6－1－4	経済的理由により不登校となった児童生徒数 ○経済的理由により不登校となった児童生徒数	0件	0件	0件	0件	0件	私立幼稚園支援事業	保護者の経済的負担の軽減を図るため、私立幼稚園の施設利用料及び副食費について助成します。	私立幼稚園保育料等補助金として幼児96名分27,199千円、私立幼稚園児副食費助成金として幼児延べ78名分712千円を助成し、保護者の経済的負担の軽減を図った。
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値			
			0件						
	ヤングケアラー等を理由に不登校となった児童生徒の把握・支援を行うことができなかった件数	0件	R5 実績値				就学援助事業	学校教育法に基づき、経済的な理由により就学が困難と認められる児童生徒の保護者等に対し、就学援助を行います。	就学援助費として小学生児童58名に1,572千円、中学生生徒28名に1,649千円を助成し、経済的に就学が困難と認められる保護者の支援を行った。
			0件						
			R5 実績値						
			0件						
							学校給食センター運営事業	児童生徒に対し、学校給食栄養摂取基準に基づく栄養バランスのよい給食を提供します。	令和5年度給食提供回数192回 児童数人677、生徒数369人(5月1現在) ・毎月学校及び保護者に献立表と食育に関する文書を配布 ・毎月献立に使用する原材料の情報を学校とアレルギー対象の保護者に提供し事故防止に努めた。
							給食費の無償化事業	保護者の経済的負担の軽減及び子育て支援のため、第3子以降の給食費の無償化を行います。また、対象児童生徒の拡充について検討します。	小学生94名、中学生32名計126名の児童生徒に対して6月～12月までの6月分の給食費保護者負担金の第3子無償化を実施した。4,5月分および1～3月分の給食費保護者負担金については、地方創生臨時交付金を活用し、全児童生徒を完全無償化した。
							スクールバス運営事業	学校統廃合により遠距離となった児童生徒を対象に、布鎌小学校、安食台小学校、栄中学校へ送迎をします。	○統合により遠距離の通学となった児童生徒が安全に通学できるよう、スクールバスの運行継続。 ・小中学校共に登下校時2便の運行 安食台小学校 旧北辺田小学校区:マイクロ、旧酒直小学校区 :中型 栄中学校 旧竜角寺台小学校区:大型 マイクロ、旧酒直小学校区:中型 ○運行委託（田中観光株式会社） ・スクールバス運行回数 通常運行 197日 休日運行 145日 校外学習 42台 プール送迎 26台 布鎌小送り 111台 他課利用 1台 ○借上バス マイクロ5台 中型19台 大型30台
施策の達成度			A						
予算額(千円)			64,474						
決算額(千円)			61,160						

	施策の達成度評価・理由	・私立幼稚園保育料等補助金、私立幼稚園児副食費助成金について適正に執行することができた。 ・就学援助事業については、公正公平な調査と審査を行い、経済的に就学が困難と認められる保護者に支援を行うことができた。 ・給食費の無償化については、助成申請を行った家庭に対して公正公平な審査を行い、適切な助成を行うことができた。 ・給食の時間を利用して、町長と各小学校の6年生の懇談が行われた。 ・スクールバス運営事業については、運行計画や各学校から上げられる要望に沿って、安全に運行することができた。 各事業を適切に行い、経済的な理由により不登校となった児童生徒は0名であることから施策全体として達成度を「A：目標を達成」と評価した。
	今後の課題	・就学援助事業については、より公正公平で認定基準や認定方法の見直しと事務の効率化を検討していく必要がある。 ・給食費の無償化事業は、自治体による格差が見られるようになっている。居住地による教育格差とならないよう国や県に要望を継続していく。 ・スクールバスの老朽化に伴い、修繕費や修理に係る代替運行費用が増加している。令和6年度末に現契約が終了することから今後のスクールバス運行事業の方向性について検討する。 ・町長との給食懇談会が、小学生のみで実施されている。中学生は、中学生模擬議会において代表生徒が参加数方法をとっている。今後、多くの生徒が町政や政治に興味関心を持つことができるよう町長との給食懇談の実施範囲の拡大を検討していく。 ・家庭の中で、保護者(大人)が担うべき家事や育児、介護を理由に不登校となる児童生徒(ヤングケアラー)の把握と支援が懸念される。
	今後の取組	・就学援助申請書類に民生委員の所見が必要な状態であるが、多面的に判断ができるよう所得算定基準のシステム化等が導入できるよう要望していく。 ・スクールバスの委託方法について、7月を目途に教育委員会としての方向性を示し、町部局と連携して令和7年度の新たな契約に向け安全で利便性の高いスクールバス事業を進めていく。 ・ヤングケアラー等の対応については、福祉部局と情報共有、連携を通してSSWや民生委員・児童委員を活用し、家庭支援、保護者支援が行われるよう協力をしていく。

【教育課】 6－1－5 教職員の働き方改革の推進										
＜目指す成果＞		ICTの活用や地域部活動の移行により教員の負担軽減が図られている。								
施策名 (施策番号)	成果目標						令和5年度 事業内容			
	成 果 指 標	R3 現状値	R5 目標値	令和6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	主要事業	事業概要	主な活動実績	
教職員の働き 方改革の推進 6－1－5	ICT化による働き方改 革推進率 ○校務支援ICTの活 用が働き方改革に貢 献していると思う職員 の割合	88%	90%	95%	100%	100%	校務支援ICT活 用事業	諸表簿作成など教職員の校務作業の負担を減らし、児童生徒と向き合う時間を確保するためのコンピューターを使った校務支援を推進します。	教職員の「校務作業の負担を減らし、子どもと向き合う時間を確保するために、コンピューターを使った校務支援の活用を行っている。 全123台(県費負担教職員用113台、学校支援職員用10台) 校務支援PCの更なる効果的な活用と利便性の向上を目的に環境調査や専門家との協議を行った。	
			R5 実績値	令和6 実績値	R7 実績値	R8 実績値				
			87% (96.7%)							
	中学校部活動の地域 移行数 ○休日の中学校の運 動部活動において、 指導者の地域移行を 実施した数(累計)	0 部活動	R5 目標値	令和6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	地域部活動推進 事業	中学校教職員の部活動指導における負担軽減を図るため、中学校の部活動において、指導者の地域移行を推進します。	令和8年度の完全移行に向け、令和5年度から7年度の3年間を改革推進期間と位置付けた。 令和5年8月：教育委員会会議、生涯学習課に概要説明。 11月：栄中学校教職員に概要説明。教職員、保護者、生徒にアンケート調査実施。 部活動地域移行に係るワーキンググループ会議 総務政策課長、企画財政課長、教育長、教育次長、生涯学習課長、教育課長、生涯学習課担当職員、教育課担当職員 令和6年1月：第1回会議(事業概要の共有、各種要綱の検討、今後のスケジュールの確認) 令和6年3月：第2回会議(部活動指導等活用事業実施要綱、部活動地域移行推進協議会設置要綱の検討) 令和6年3月：教育委員会議定例会(部活動指導等活用事業実施要綱、部活動地域移行推進協議会設置要綱の承認)	
			1 部活動	2 部活動	10 部活動	13 部活動				
			R5 実績値	令和6 実績値	R7 実績値	R8 実績値				
			0 部活動							
	施策の達成度			C				教員アシスタント 職員活用事業	教員が児童生徒と向き合う時間を確保するとともに、教員の長時間勤務環境を是正し働き方改革を進めるため、資料印刷や集金業務、給食配膳補助などの教員の業務補助を行う教員アシスタント職員を配置します。	教員が児童生徒と向き合う時間を確保するため、教員アシスタント教員を全校に配置(5校8名)し、配布文書や学習プリントの印刷、集金業務等のサポートを行うことで、教職員が児童生徒への個別対応や授業準備・教材研究等の時間を確保した。
	予算額(千円)			19,581						
	決算額(千円)			19,033						

	施策の達成度評価・理由	・「校務支援ICTの活用が働き方改革に貢献していると感じている教職員の割合」について、年度末の教職員アンケートでは、目標値90%に対して、87%の肯定的回答を得た。 ・「休日の中学校部活動において、指導者の地域移行を実施した数」については、目標値1部活動に対して実績値0だった。 以上のことから施策全体の達成度としては「C:目標に達成していない」と評価した。
	今後の課題	・校務支援ICTについては、教職員1人に対して1台のPCが貸与されている。業務改善をより効果的に進めていくためにPC環境の改善が課題となっている。令和8年度を目途に機器の入れ替えを検討しているが、本町の校務PCの使用環境が不便であるという声が上がっている。近隣市町の状況を踏まえながら可能なものについては随時改善を進めていく必要がある。 ・部活動地域移行については、教育委員、学校教職員、関係各課への説明と教職員、保護者、生徒に対するアンケート調査を実施した。町内関係各課の代表者を招聘したWG会議を実施したが、具体的なモデル事業の実施には至らなかった。広域連携も視野に多くのニーズに対応できる方向性を検討していく必要がある。
	今後の取組	・校務支援PCをより効率的に活用するための教育委員会としてのビジョンを明確にし、専門家に意見を聞きながらどのような整備が可能であるか具体的な検討を進め、令和6年度秋の一部改善を目途に準備を進めていく。 ・部活動地域移行は、推進協議会を中心に検討を進め、令和6年度中に令和8年度の完全移行後のビジョンを生徒、保護者、地域住民に説明を終えることができるように準備をする。 ・部活動地域移行の取り組みを通して、将来所属した地域クラブ等に戻り、地域の指導者として活躍することができる生徒の育成を行うことができる仕組みづくりもビジョンに入れ込み、地域クラブの在り方について検討を進めていく。

【教育課】 6-2-1 教育施設の充実

＜目指す成果＞

各学校の施設等の修繕や改修工事等を計画的に行うことで教育施設が充実し、安全安心な学習環境が確保されている。

施策名 (施策番号)	成果目標						令和5年度 事業内容		
	成 果 指 標	R3 現状値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	主要事業	事業概要	主な活動実績
教育施設の充実 6-2-1	児童生徒の事故・ケガの件数 ○各年度の学校施設内における児童生徒の事故及びケガの件数	0件	0件	0件	0件	0件	学校施設大規模改修事業	適切な学校教育の環境を確保するため、計画的に学校施設の改修工事等を行います。 また、脱炭素化に向け再生可能エネルギーの利用促進を検討していきます。	安食小学校プールを解体し、安食小学校のグラウンドの拡張を行った。 令和7・8年度工事に向け安食小学校校舎長寿命化改修工事に係る基本設計業務を行った。 小学校、中学校の照明器具のLED化を行った。
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値			
			0件						
							学校施設修繕事業	適切な学校教育の環境を確保するため、学校施設の維持修繕等を行います。	○安食小学校連絡通路壁修繕工事 1,284,800円 ○安食台小学校ベランダ給水管修繕工事 907,390円 ○安食台小学校体育館倉庫屋根防水修繕工事 1,298,000円 ○安食台小学校滑り台撤去工事 143,000円 ○各小中学校消防設備修繕工事 4,880,480円 等を行った。
	施策の達成度		A						
	予算額(千円)		51,898						
	決算額(千円)		50,051						
	施策の達成度評価・理由		学校施設の老朽化等が原因による児童生徒の事故及びケガは発生しなかったことから施策の達成度を「A:目標を達成」と評価した。 今後も学校での日常点検を行い、学校と連携を図ることで危険個所の早期発見、早期対応に努めていく。						
今後の課題		・老朽化した施設や設備を「学校施設の個別改修計画」に基づき修繕や改修工事を行うため、国等の補助金を活用するなど財源を確保する。 ・脱炭素化に向け再生可能エネルギーの利用促進が求められている。 ・令和6・7年度に安食小学校の長寿命化を行い、令和10年度には安食台小体育館の長寿命化を行う。その後も建築年数と劣化状況を加味しながら順次学校施設の長寿命化を行う。 ・修繕等が必要とされるすべての部分について、予算措置により対応していくことは難しい状況である。優先箇所を見極めながら計画的に修繕事業を実施していく。							
今後の取組		・学校施設大規模改修工事には、多額の費用が伴うことから、国の補助採択を得るなど、安定的な財源の確保に努める。 ・「学校施設の個別施設計画」を見直し、必要な修繕や改修工事を進める。 ・大規模な修繕や改修を行う際には、脱炭素化に向け再生可能エネルギーの導入や省エネ設備の導入を検討する。 ・学校施設は避難所としても指定されていることから、これに伴う避難所としての改修工事も併せて実施する。令和6年度は安食小・安食台小・竜角寺台小体育館トイレの洋式化工事を行い、令和6から7年度にかけて栄中学校体育館の空調を整備し、7年度に各小学校体育館空調設備の整備を進める。							

【給食センター・教育課】 6－2－2 給食施設の充実										
＜目指す成果＞		新しい給食センターの建替えや老朽化が著しい既存の給食センターの適切な修繕より、安全安心な学校給食を児童生徒に提供できている。								
施策名 （施策番号）	成果目標						令和5年度 事業内容			
	成 果 指 標	R3 現状値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	主要事業	事業概要	主な活動実績	
給食施設の充 実 6－2－2	異物混入・食中毒件 数 ○学校給食における 異質物・食中毒の発 生件数	0件	0件	0件	0件	0件	給食センター修 繕事業	給食センター機能の維持保全を図るため、必 要な修繕等を行います。	調理機器等修繕 214件 3,744,437円 設備修繕 124件 3,663,204円 施設修繕 4件 976,700円 合計 8,383,341円	
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値				
			0件							
							学校給食セン ター建替事業	老朽化が著しい給食センターを現行の学校 給食衛生管理基準に適した施設とするととも に、災害時には炊き出し対応も可能な施設と して建設します。また、脱炭素化に向け再生 エネルギーの利用促進を検討していきます。	・給食センター建替えに向けて民間企業16社へ市場調査を実施し、 10社から回答を得た。 ・盛土造成実施設計業務委託を実施したが、令和6年1月1日の能登 半島地震を受けて、建設用地の再検証を行うこととした。	
	施策の達成度		A							
	予算額(千円)		8,400							
	決算額(千円)		8,384							
	施策の達成度評価・理由		老朽化する学校給食センターを日常点検、定期点検を行い、早期に修繕箇所を把握、修繕を行い、1日も欠食することなく予定通り給食を提供することができた。 以上のことから施策の達成度を「A：目標を達成した」と評価した。							
	今後の課題		新たな学校給食センターの建設が完了するまで、現在の学校給食センターの機能の維持保全をすることが課題となる。 給食センター建設用地の再検証にあたり、町総合戦略や人口ビジョンなど各種計画の進捗と併せ、児童・生徒の将来推計を再度見直し、給食センターの規模、用地等再検証を行っていく必要がある。							
	今後の取組		・職員、調理委託業者と連携を図り、日常点検等を行い、早期に修繕等の対策を行い欠食が生じないよう、センターの機能の維持保全に努める。 ・給食センターの建替えに関し経済性や安全性の検討を含め建設用地の再検証を行い、給食センターの建替えを確実に進める。							

【教育課】 6-2-3 ICT教育及びICT化の推進									
＜目指す成果＞		児童生徒が興味関心を持てるようなICTを活用した授業が展開されている。							
施策名 (施策番号)	成果目標						令和5年度 事業内容		
	成果指標	R3 現状値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	主要事業	事業概要	主な活動実績
ICT教育及び CT化の推進 6-2-3	タブレットを使った授業数 ○タブレットを使った授業数	2,412回	2,500回	3,000回	3,500回	4,000回	ICT教育充実事業	児童生徒が興味を持てるようなICTを活用した授業を展開するため、プログラミング的思考を育むことができるようなソフトの導入や教員への研修支援を行います。	ICT支援員を全ての小中学校に週1日ずつ派遣した。操作方法の援助や教師のICTを活用した授業づくりに対して指導助言をした。また、支援員が、ICT活用についての校内研修や町の教職員研修の講師等も行い、教職員の資質向上を図った。授業用PCを10台追加購入し、栄中学校に7台、安食小学校に3台追加配置した。
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値			
			11,293回 (452%)						
							校務支援ICT活用事業	教職員の校務作業の負担を減らし、児童生徒と向き合う時間を確保するためのコンピュータを使った校務支援を推進します。	教職員の「校務作業の負担を減らし、子どもと向かう時間を確保するために、コンピュータを使った校務支援の活用を行っている。全123台(県費負担教職員用113台、学校支援職員用10台)校務支援PCの更なる効果的な活用と利便性の向上を目的に環境調査や内田洋行との協議を行った。
	施策の達成度			A					
	予算額(千円)			19,518					
	決算額(千円)			19,510					
施策の達成度評価・理由		タブレットを使った授業数は、目標値2,500回に対して11,293回(昨年度比7043増)となっており、ICTを活用した授業展開が広く普及している。これは、ICT支援員を活用した研修や各学校の情報教育担当者が活用についての情報発信を積極的に行うことにより、教職員のICTを活用した授業づくりに対する意識が向上した成果であると考え。以上のことから施策全体の達成度を「A:目標を達成」と評価した。							
今後の課題		・今後の課題としては、ICT活用が苦手な教職員や教科による活用数の差が大きくなっている現状がある。全ての教職員が、抵抗なくICTを活用することができる資料や情報提供、研修の充実を図りICTを活用した授業改善を推進し、学力向上に結び付けていく。 また、授業用PCでは、動作に不安定な面が見られたり、校務用PCでは利便性に課題があり、学校現場からの改善要望が上がってきている。 ・日常的にタブレットの活用が図られるようになっている。今後、成果指標の調査基準を明確化し、「思考力・判断力・表現力」や「情報処理能力の向上」に関する活用がより一層推進されることが求められている。							
今後の取組		令和8年度の2学期の実施を目的にPCの入れ替え、環境整備を完成させる。それまでの期間であっても、教育委員会としての完成ビジョンを明確にし、可能な限りの環境改善を行うことができるよう、検討を行っていく。 また、ICTをより効率的に活用し、児童・生徒の学力向上につなげるよう研究していく。							

【生涯学習課】 6ー3ー1 生涯学習機会の充実										
＜目指す成果＞		誰もが参加しやすい学習環境づくりを進めることによって、各種講座などの参加者や図書室の利用者が増加している。								
施策名 (施策番号)	成果目標						令和5年度 事業内容			
	成 果 指 標	R3 現状値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	主要事業	事業概要	主な活動実績	
生涯学習機会の充実 6ー3ー1	生涯学習事業参加者の満足度 ○生涯学習事業(各種講座、体験学習等)の参加者の満足度	90%	92%	93%	94%	95%	いきいき塾さかえ事業	町民が生涯にわたり学習することができる機会を提供するため、子供から高齢者までの学習ニーズに沿う各種講座である、いきいき塾さかえ事業を実施します。	○いきいき塾さかえ 全6講座を通して全ての町民の方に生涯学習の機会を提供した。 (参加のべ人数94名) ・ゆかたの着付け教室(2名) ・スマートフォン教室(15名) ・サマーキャンプ教室 陶芸教室(2回実施 各べ20名)	
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値				
			91% 6講座の平均							
	ふれあいプラザさかえ利用の学習サークル数 ○ふれあいプラザさかえ利用サークル連絡会の登録団体数	54団体	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	サークル活動支援事業	町民が生涯にわたり学習することができる環境を整え、ふれあいプラザさかえ利用サークルの活動を支援します。	○登録団体の広報掲載(2回) ・ハワイアン体験(あじきカトレアフラサークル) ・合唱体験(アレグロ) ○令和6年度分予約の入力完了による活動場所の確保 ○ふれあい文化祭(来場者数2,450人) ○1階展示ロビーにおいて、展示ケースやミニギャラリーによるサークルの案内、作品展示を随時展開した。(通年)	
			55団体	56団体	57団体	58団体				
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値				
	図書貸出し者数 ○図書の貸出し者数	17,833人	48団体				図書室運営事業	図書資料を活用して町民が主体的に学習できるよう、図書室の蔵書を充実させるとともに学校図書と連携を図り、子供たちの読書活動や読書教育を支援します。	○絵本の読み聞かせ(11回実施、参加のべ人数130名)(通年) ○夏のおはなし会(54名) ○クリスマスおはなし会(51名) ○夏休み図書室スタンプカードの発行(15名) ○新規購入図書冊数(430冊、内一般書330冊、児童書等100冊) ○インターネット予約数 1,602冊 ○図書室蔵書数 57,181冊	
			R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値				
			18,000人	18,100人	18,200人	18,300人				
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値				
	16,917人									
	施策の達成度			B						
	予算額(千円)			4,414						
	決算額(千円)			4,349						

	施策の達成度評価・理由	・講座の参加者数は住民ニーズにあったものを開催出来たことや口コミなどにより、前年度と比較して、12名増加した。 ・ふれあいプラザさかえ利用サークル連絡会の登録団体数は、会員の高齢化などの影響で、活動ができなくなったり、会員数が減少したことで、団体数が減少してしまったため、「目標を達成していない」と判断した。 ・図書貸出者数も目標値を下回ったため、「目標を達成していない」と判断した。 ・講座においての参加者の満足度アンケートは平均で90%となっており、高評価が得られているが、目標値を下回ったため、「目標を達成していない」と判断したが、スマートフォン教室以外はおおむね90%以上を達成しており、ゆかたの着付け、陶芸、切り絵の3講座は満足度100%を達成したため、全体として達成度を「B: 目標をほぼ達成」と評価した。
	今後の課題	・各団体会員の高齢化及び講師の確保や活動の維持が課題となる反面、新たなサークルの設立が無いことからサークル連絡会登録団体数が減少している。 ・今後、栄中学校部活動の地域移行を踏まえ、地域として文化、芸術系部活動をどのように支え関わるができるか課題である。 ・キッズ教室はふれあいプラザさかえを利用しているサークル等が講師となっているが、サークルの高齢化などにより拡大には至っていないことから、新たなボランティアなどの発掘が必要となっている。また、成人向けの講座はスマホ教室などのニーズがあることから講師となる企業等を調査する必要がある。 ・目標の達成や具体的なニーズ把握のため、アンケート項目の回答の選択肢など参加者への聞き方を変える必要がある。 ・インターネット予約の利用促進や学校図書室、一般利用者の利便性向上につながる支援などを充実させ、図書の貸し出し冊数及び利用人数の増加を図る。
	今後の取組	・栄中学校部活動の地域移行を踏まえ、町の生涯学習の在り方を再度検討し、地域として文化、芸術系部活動をどのように支え関わるができるか検討していく。 ・成人向けの講座はスマホ教室などのニーズがあることから、企画財政課のDX・資産経営推進室やくらし安全課のまちづくり大学など他課との連携により充実を図る。 ・サークル活動については、登録団体の年間予約により活動場所を確保し、町広報誌やHP、文化祭などでサークル活動をアピールし、各団体の団体会員の増加支援につなげる。 ・図書室については、広報さかえに話題となっている本を継続して掲載したり、インターネット予約についてわかりやすく説明するパンフレットの作成や、学校図書室への貸出しの際の運搬の支援をする。 ・ふれあいプラザさかえ図書室と小中学校図書室の図書管理システムのネットワークを構築し、一般利用の促進を図る。 ・サークル化の希望がある団体の支援をして、サークル数増加を図り、文化祭などのサークル同士が交流できる機会を提供していく。

【生涯学習課・教育課】 6-3-2 地域教育力の充実

＜目指す成果＞

地域と学校が連携・協力して地域全体で子供たちの成長を支えている。

施策名 (施策番号)	成果目標						令和5年度 事業内容			
	成 果 指 標	R3 現 状 値	R5 目 標 値	R6 目 標 値	R7 目 標 値	R8 目 標 値	主要事業	事業概要	主な活動実績	
地域教育力の 充実 6ー3ー2	地域教育力関係事業 参加者の満足度 ○地域教育力関係事業(放課後教室、青少年健全育成事業、ドラム自然楽校等)の参加者の満足度	—	90%	91%	92%	93%	放課後ふれあい 教室事業	子供たちが放課後に安心して活動できるよう地域住民の参画を得て、学習や交流活動などを行います。	○放課後ふれあい教室 放課後の子どもの快適・安全な居場所づくりに取り組んだ。 ・安食小:16回実施(延べ132名) ・布鎌小:13回実施(延べ126名)	
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値				
			92%							
							青少年健全育成 事業	青少年を健全に育成するため、青少年相談員連絡協議会や家庭教育学級支援チームなどの活動を支援します。	○狩る者と狩られる者(栄町青少年相談員事業)(61名) ○栄町二十歳の集いフオトスポット設営(栄町青少年相談員事業)(16名) ○栄町二十歳の集い(118名) ○IKS(家庭教育学級)(5回実施、81名)	
							ドラム自然楽校 体験学習事業	子供たちの健やかな成長と青少年の健全育成のために、新たな自然体験メニューを追加することや体験場所の確保の検討を含め、事業の活動拡大を図ります。	○ドラム自然楽校 全7回の開催を通じて町内児童の自然体験学習に取り組んだ。 ・開校式・田植え(40名) ・デイキャンプ(11名※5・6年生のみ) ・畑作(39名) ・室内レクリエーション(40名) ・どらま収穫(37名) ・脱穀(28名) ・親子凧揚げ・開校式(37名)	
	施策の達成度		A					コミュニティ・ス クール事業	保護者や地域の住民などが一定の権限をもって各学校の運営及び当該運営への必要な支援に関して協議する学校運営協議会を運営します。	○学校運営協議会の運営 学校・家庭・地域連携推進事業費補助金を活用し、各種学校・地域との協働活動に取り組んだ。 ・学校運営協議会の開催 栄中学校(4回) 安食小学校(3回) 布鎌小学校(3回) 安食台小学校(4回) 竜角寺台小学校(3回) ・計画書作成(各校) ・実績書作成・評価(各校)
	予算額(千円)		3,935							
決算額(千円)		3,825								
施策の達成度評価・理由			・参加者の満足度指標としてドラム自然楽校等において92%の満足度を達成することが出来たため、達成度を「A:目標を達成」と評価した。 ・取組の継続と周知、メニューの精査等が功を奏した。							
今後の課題			・子どもを取り巻く環境は日々変化しているため、各種事業においてメニューの見直しや周知方法について検討していく必要がある。 ・事業を運営する担い手不足や担い手の高齢化により、活動の維持が課題となっている。 ・コーディネーターなど各地域の連携を補助する人材の発掘が課題となっている。							
今後の取組			・活動事業費を確保するため、民間の基金や補助金等の新たな財源確保に努める。 ・参加者等からのニーズを精査し、より魅力ある事業となるように取り組んでいく。 ・地域との連携により、コーディネーターなどの人材の発掘や養成に取り組んでいく。 ・コーディネーターを中心に各学校運営協議会と地域のふれあい推進委員会などの団体の連携を支援していく。							

【生涯学習課】 6－3－3 生涯学習施設の充実									
＜目指す成果＞		ふれあいプラザさかえの維持管理に必要な修繕や改修工事を計画的に行うことにより、利用者が安全安心に利用できている。							
施策名 (施策番号)	成果目標						令和5年度 事業内容		
	成 果 指 標	R3 現状値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	主要事業	事業概要	主な活動実績
生涯学習施設 の充実 6－3－3	ふれあいプラザさかえ の利用者数 ○ふれあいプラザさか えの利用者数	166,290 人 (ワクチン 接種含 む)	168,000人	169,000人	170,000人	171,000人	ふれあいプラザ 施設大規模改修 事業	ふれあいプラザさかえが安全安心に利用で きるよう、ふれあいプラザさかえ個別施設計 画(長寿命化計画)に沿って大規模改修事 業を行います。	○ふれあいプラザ施設大規模改修の実施 ・文化ホール音響設備改修工事(5,478千円) ・防犯カメラ設置工事(700千円) ・ベビーシート設置工事(150千円) ・図書室電話回線工事(54千円) ・その他の修繕 ふれあいセンター1階公園側トイレ排水詰り修繕／悠遊亭給水設備ボ ンブユニット修繕工事／給湯器交換修繕／消防用設備修繕工事／コ ンセント修繕／陶芸窯修理／ふれあいセンター1階北側トイレ排水詰り 修繕／トイレ排水金具交換修繕／ドアクローザー等修繕／空調設備V ベルト交換修繕／自動ドア部品交換修繕(3,641千円)
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値			
			156,507人						
							ふれあいプラザ 施設管理運営事 業	ふれあいプラザさかえが生涯学習活動の場 として安全安心且つ、効果的に提供できるよ う、管理・運営を行います。	○ふれあいプラザさかえの管理・運営を実施 ・施設総合管理や設備保守点検、特定建築物定期報告調査等を委 託 ・光熱水費(電気・ガス・上下水道)の支払い ・窓口業務の会計年度任用職員の調整 ・文化ホール業務委託(舞台・音響・照明のスポット委託) (67回対応)
	施策の達成度		B						
	予算額(千円)		68,565						
	決算額(千円)		65,464						
施策の達成度評価・理由			ふれあいプラザさかえが生涯学習活動の拠点として安全安心且つ、多くの方に利用いただけるよう、各種工事、修繕を実施し、令和4年度と比較して8,094人増加したが、ワクチン接種会場になったことによる4年度のホールと悠遊亭の閉館など新型コロナウイルス感染症の影響が残り、目標の利用者数には届かなかったため、達成度を「B: 目標をほぼ達成」と評価した。						
今後の課題			・図書室の移設や自習スペースの拡大など利便性改善の要望があるため、図書室利用者のニーズを把握する必要がある。 ・臨時駐車場の利便性の改善が求められている。 ・経年劣化による設備等の不具合が発生することが予測される。 ・トイレの暖房便座への交換を予定しているが、全体的に和式の割合が高く、洋式トイレを増やしてほしいと常時要望が上がっており、計画的に洋式化を進めていく必要がある。 ・ふれあいプラザさかえは、指定避難所となっているほか、災害支援拠点としても位置付けられているため、被災した際に災害支援拠点として機能するよう、整備する必要がある。						
今後の取組			・ふれあいプラザさかえ開館29年を経過し、町民ニーズの変化や行政ニーズの変化を捉えた柔軟な施設運営を行うため、ニーズ把握や町部局との連携・調整を進めます。 ・「ふれあいプラザさかえ個別施設計画」に基づき計画的に改修を遂行するため、公共施設等長寿命化検討会において調整を図り進めていく。また、施設改修時期の変更が見込まれるため各年度ごとに個別施設計画の見直しを行う。 ・臨時駐車場の盛土による施設までの動線の確保など利便性の改善を計画していく。 ・利用者の安全面の確保に努め、設備の不具合の解消を図る。 ・和式トイレを洋式トイレへ改修するため、個別施設計画に追記し、予算化していく。 ・被災時の災害支援拠点として機能できるよう、関係各課と協議し、施設の整備をしていく。						

【生涯学習課】 6－3－4 スポーツ環境づくりの推進										
＜目指す成果＞		子供から大人まで誰もが生涯にわたって、気軽に楽しくスポーツができる環境づくりを推進することで、町民が健康で活力ある生活を送っている。								
施策名 (施策番号)	成果目標						令和5年度 事業内容			
	成 果 指 標	R3 現状値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	主要事業	事業概要	主な活動実績	
スポーツ環境 づくりの推進 6－3－4	スポーツ教室・大会等 参加者数 ○スポーツ教室や大 会等の参加者数	7,736人		7,770人	7,800人	7,830人	7,860人	スポーツフェスタ 実施事業	子供たちがトップアスリートとの交流を通じ、ス ポーツへの関心や機運を高め、夢と希望を育 むとともに、競技力の向上を図るため、スポー ツフェスタを実施します。	○さかえスポーツフェスタ(12月16日、17日開催) ・卓球教室(中学生:35人) アスリート:藤沼亜衣、藤井寛子 ・バスケットボール教室(中学生:76人) アスリート:荻内夏美、矢代直美 ・陸上教室(中学生:36人) アスリート:井上将憲、秋葉麻帆 ・バレーボール教室(中学生:53人) アスリート:ヨーコ・ゼッターランド、丸山由美、永富有紀 ・栄町ポッチャ大会(10月29日開催)(参加者:30人) ※上記合計:230人
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値				
			6,250人							
	スポーツ施設の利用 者数 ○学校体育施設及び スポーツ施設の利用 者数	84,160人	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	スポーツ団体活 動支援事業	各種スポーツ競技力の向上を図るため、ス ポーツ団体に対し施設利用の優遇やスポー ツ大会の後援など、活動を支援していきま す。	○さかえオープンゴルフ(参加者:79人) ○印旛郡市民スポーツ大会(参加者:211人) ○千葉県民体育大会(参加者:ソフトテニス3人、弓道1人、卓球2 人、軟式野球18人、合計24人) ○印旛駅伝競走大会(参加者:6人) ○スポーツ協会各専門部大会等(参加者:1,304人) ・バレーボール主催大会 132人 ・卓球主催大会 247人 ・野球主催大会 925人 ※上記合計:1,624人	
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値				
			86,094人					スポーツによる 健康づくり事業	スポーツを通じてすべての町民が主体的に 健康づくりに取り組めるよう、ライフステージに 応じた運動種目の提案やスポーツへの参加 のきっかけづくりの場を提供します。	○軽スポーツ教室 (4月・5月・6月・9月・10月・11月・12月・1月・2月)合計:延べ11 5人 実施種目:ピククルボール・ポッチャ ○町民ブルー一般開放 (8月1日～20日)利用者:延べ2,341人 ※上記合計:延べ2,456人 ○水と緑の運動広場利用者:延べ23,501人 ○房総のむら多目的広場利用者:延べ10,387人 ○町民体育館利用者:延べ6,887人 ○町民運動場利用者:延べ11,731人 ○学校開放利用者:延べ33,588人 ※上記合計:延べ86,094人
	施策の達成度			B				パラスポーツ事 業	障がいのあるなしに関わらず、参加者が一緒 にパラスポーツの普及に取り組めます。	○栄町ポッチャ大会 参加者:30人
	予算額(千円)			20,077				マラソン大会事 業	スポーツによる健康づくりを推進するため、マ ラソン大会を実施します。	○リバーサイドさかえドラムマラソン ハーフ・10km・5km・2km・親子(1km) ・令和6年2月18日開催 申込者数:2,224人／参加者数:1,940人
	決算額(千円)			17,058				スポーツ環境整 備事業	誰もがいつでも安全かつ快適に施設を利用 できるように、スポーツ施設の改修を行いま す。	○町民ブルーシャワーボールバルブ交換修繕(38千円) ○竜角寺台プール出入口舗装(99千円)

	施策の達成度評価・理由	・スポーツ教室・大会等参加者数について、いまだ新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を休止していた団体やスポーツから離れてしまった個人などの活動再開ができていないことや、コロナの影響により解散した団体が行っていた大会がなくなったことにより、各種スポーツ教室等への参加者が減少した。 ・再開2年目となったリバーサイドさかえドラムマラソンについては、昨年同様にスムーズな大会運営に努めたが、参加者が若干減少した。町外からの参加者が多く交流人口の拡大が図れた。また、80歳以上の方が19名参加し、幅広い年代の健康増進に繋がった。 ・さかえスポーツフェスタは昨年度と同等の参加者があった。今後もアスリートとの交流により、子供たちのスポーツへの関心が高まるよう実施していく。 ・スポーツ施設の利用者数については、小中学生の施設使用料を無料化したこともあり、目標を達成することができたため、達成度を「B: 目標をほぼ達成」と評価した。
	今後の課題	・リバーサイドさかえドラムマラソンについては、参加者を増加させるための効果的なPR活動とコースの見直し、運営体制の改善を行い参加しやすい大会を目指す。 ・さかえスポーツフェスタについては、スポーツへの関心を高めるため小学生の参加を検討すること、アスリートとの交流時間を増やすため1日開催を基本に検討する。 ・スポーツ協会等スポーツ活動団体については、高齢化が進んでいる団体やコロナの影響により解散した団体があり、活動自体が縮小傾向にある。また、世代交代が進んでいないなど指導者不足に対応する必要がある。 ・健康増進への意識を向上させ、運動教室へ参加を促すこと、参加者が楽しむためのスポーツ種目を取り入れ参加しやすい環境を整備する。 ・安全に利用できるよう、スポーツ施設を適正に管理する。 ・今後、栄中学校部活動の地域移行を踏まえ、地域としてスポーツ系部活動をどのように支え関わるができるか課題である。
	今後の取組	・リバーサイドさかえドラムマラソンについては、魅力あるコースや運営体制の改善を検討し、ポスターやチラシ等の多くの情報媒体を利用し参加者の増加を図る。 ・さかえスポーツフェスタについては、参加者の現状を把握し、レベルに合った内容で指導していただくよう、アスリートとの十分な調整を行う。 ・軽スポーツ教室でポッチャを継続して実施し、パラスポーツの普及を図る。また、高齢者が参加しやすいような新たなスポーツ体験の種目を調査し、スポーツへの参加のきっかけづくりの場を提供する。 ・スポーツ活動団体へ適切な支援を行い、活動の活性化や新たな指導者の確保を図る。 ・健康増進への意識の向上のため、健康介護課の行なっている事業との連携を図る。 ・スポーツ施設の適正な管理のため、点検・整備を定期的に実施する。 ・栄中学校部活動の地域移行を踏まえ、町の生涯スポーツの在り方を再度、検討し地域としてスポーツ系部活動をどのように支え関わるができるか検討していく。

【生涯学習課】 6ー4ー1 芸術文化活動への支援										
＜目指す成果＞		町民に文化芸術に触れる機会や活動の成果を発表する機会を提供することで、芸術文化活動が活性化している。								
施策名 (施策番号)	成果目標						令和5年度 事業内容			
	成果指標	R3 現状値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	主要事業	事業概要	主な活動実績	
芸術文化活動 への支援 6-4-1	芸術文化の公演数 ○文化ホール利用の 音楽、演劇、舞踊、映画などの公演数	0公演 (ワクチン 接種のため)	17公演	17公演	18公演	18公演	自主文化事業実施事業	多くの町民が芸術文化を身近に感じられるように、演劇、舞踊、歌謡、映画など様々な分野の自主文化事業を行います。	○自主文化事業(5回) ・ホールピアノ一般開放 4月:4日間(26組55人) 10月:4日間(26組74人) ・龍夢サマーコンサート(230人) ・クリスマスジャズコンサート(600人) ・宝くじまちの音楽会 岩崎宏美・岩崎良美～ふれあいコンサート～(1,040人)	
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値				
			17公演				芸術文化公演鑑賞支援事業	ふれあいプラザさかえや近隣市町で開催される芸術文化公演に関する情報を提供するなど、芸術文化鑑賞の支援及び機会を提供します。	○文化ホール貸館事業(7月～3月)(12回) ・合唱コンクール(2回) ・ピアノ発表会(1回) ・音楽会・コンサート(4回) ・ダンス発表会(2回) ・演劇(1回) ・舞踊発表会(1回) ・ふれあい文化祭(1回)	
	文化祭参加団体数 ○ふれあい文化祭の 参加団体数	0団体 (中止)	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	芸術文化団体活動支援事業	多くの町民が芸術文化に興味を持ち参加するよう、ふれあいプラザさかえを利用しているサークルや団体の活動成果を発表する機会を提供するなど、芸術文化団体活動の支援に取り組みます。	○ふれあい文化祭参加団体数(47団体) サークル連絡会:34団体 一般参加:13団体 ○ふれあい文化祭(来場者数2,450人) ○1階展示ロビーにおいて、展示ケースやミニギャラリーによるサークルの案内、作品展示を随時展開した。	
			50団体	51団体	52団体	53団体				
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値				
		47団体								
	施策の達成度			B						
	予算額(千円)			9						
	決算額(千円)			9						

	施策の達成度評価・理由	・芸術文化の公演数については、文化ホールが新型コロナウイルスワクチン接種会場でなくなったことから、例年開催していた行事が再開されるようになり、目標値を達成した。 ・文化祭参加団体数については、文化ホールが5年ぶりに使用できたため、参加団体数が昨年と比較して増加したが、登録団体数自体が減少していることなどが影響し、一般団体を含めても「B：目標値をほぼ達成」と判断した。
	今後の課題	・自主文化事業の際のアンケート調査により、今後の文化芸術に関するニーズについて把握し、効果的な取り組みを検討する必要がある。 ・各サークル等、文化芸術団体の会員の高齢化や個人の趣味や学習活動が多岐にわたり、団体会員の確保や活動の維持が課題となっている。 ・連絡会加入団体でも文化祭に参加しない団体があるため、年に1度の発表の機会のため、何らかの形で関わっていただけるよう、呼び掛ける必要がある。
	今後の取組	・アンケート調査による文化芸術に関するニーズについて、効果的な取り組みを検討し、実現可能なものから計画的に実施していく。また、PRについても、ポスター、チラシ、HP、LINEなどにより積極的に周知していく。 ・文化芸術振興事業として、ふれあいプラザさかえ事業基金を活用し、企画・実施していく。 ・町民の方に、生きがいややりがいに繋がるようなサークル活動についてPRするため、1階展示ロビーの作品展示スペースや広報、HP、LINEなどを活用し、参加人数の増加につなげていく。 ・文化祭に出ない団体も活動成果の展示や受付の手伝いなどで関わっていただくよう、呼び掛けていく。

【生涯学習課】 6-4-2 文化財等の保護と活用											
＜目指す成果＞		町の歴史と文化財を広くガイドできる人材を育成し、文化財等の展示・公開を行うことで、文化財等の重要性が理解され、広く活用されている。									
施策名 (施策番号)	成果目標						令和5年度 事業内容				
	成果指標	R3 現状値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	主要事業	事業概要	主な活動実績		
文化財等の保護と活用 6-4-2	文化財等展示・公開事業の参加者数 ○龍角寺古墳群・岩屋古墳等の展示・公開事業等の参加人数	1,380人		1,400人	1,450人	1,500人	1,550人	文化財等保全・活用事業	町内に所在する文化財等の整理保全等を進めていくとともに、文化財等を解説できるボランティアを活用し、歴史的・観光的資源として展示や公開事業を行います。	・早稲田大学會津八一記念博物館企画展「下総龍角寺」のミニ展示をふれプラ1階ロビーで行った。(令和5年9月1日～令和6年2月28日) ・公開事業は、通常は年2回の開催だが、房総のむら風土記の丘資料館のリニューアルに伴い、5月3日に開催した。 ・百年後芸術祭プレイベントとして、ドラムの里で「龍角寺の瓦」の展示を行った。 【参加人数の内訳】 ・国指定文化財公開事業等(3回) 1,484名 ・展示(ドラムの里 12日間) 219名 ・展示(巡回展 3月度) 362名(栄中学校在校生数) ・校外学習 185名 ・外部団体 195名	
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値					
			2,445人								
	文化財紹介サイトの閲覧件数 ○町ホームページやSNS等の文化財紹介サイトの閲覧件数(累計)	13,584件	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値	文化財等のPR・情報発信事業	公開事業等の認知度を高めるために、SNS等を活用した宣伝を行い、効果的な情報発信に取組みます。	企画財政課広報班と協力で、SNSによる宣伝を実施した。 文化財サポーター個人アカウントによる宣伝協力も得た。 文化財サポーターの事務局運営アカウントにより周知を行った。		
				13,800件	13,900件	14,000件					14,100件
			R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値					
			14,460件				ボランティアガイド育成事業	校外授業や地域イベント及び文化財をめぐるツアーなどにおいて、町の歴史と共に文化財等を解説できるボランティアの育成に取り組めます。	文化財サポーターは1名増。(認定文化財ガイドは増減なし) ・「栄町を愛する女性の会との共催事業「浅間山古墳と岩屋古墳」の開催 ・校外学習、公開事業、「龍角寺の瓦」展示をととしてガイド養成を実施した。 ※文化財サポーターと認定文化財ガイド 文化財サポーターの中で、史跡等について具体的に説明できる人材のことを認定文化財ガイドとして認定している。		
			R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値					
			21人	21人	22人	22人					
	町認定文化財ガイド数 ○町認定文化財ガイドの数(累計)	20人	R5 実績値	R6 実績値	R7 実績値	R8 実績値	町史編さん事業	町史に関する調査成果の保存整理や貴重な資料を町広報やホームページに掲載するとともに、歴史講座などにより周知します。	○地域史料整理保存作業 ・安食・山田家文書目録(デジタル化・複製化) ・北辺田・石原家、安食・岩井家文書、安食配給所文書(現状記録化) ・矢口村関係文書(筆耕解説:69枚) ○栄町歴史講座 ・10月21日「布鎌惣社水神社を歩こう」(のら里くら里健康ウォーキングの会)後援。 ・12月2日に、「西の市」の歴史講座を開催し、9名の参加。 ○文化財啓発 ・広報さかえ10月号、12月号で掲載。 ○歴史公文書(評価・選別:6月20日～29日、収集:8月23日)		
			20人								
	施策の達成度			A				龍角寺古墳群・岩屋古墳保存活用計画策定事業	国指定史跡「龍角寺古墳群・岩屋古墳」を良好な景観を維持しながら、後世に残すため、憩いの場を含めた整備活用を進めていくための計画を策定します。	教育委員会事務局にて策定に係る方針を協議し、教育委員会定例会にて報告した。 関係各課との内部調整を進めた。	
	予算額(千円)			913							
	決算額(千円)			671							

	施策の達成度評価・理由	・指定文化財公開事業の参加者数は、目標値を大幅に達成した。 ・文化財紹介サイトの閲覧件数は、目標値を大幅に達成した。 ・文化財サポーター数は、目標値を達成しなかった。 以上のことから施策全体の達成度は「A:目標を達成」と判断した。
	今後の課題	○文化財等展示・公開事業 令和4年度点検評価において、有識者より、町内小学校の校外学習において、ふれあいプラザさかえロビーの下総龍角寺ミニ展示等の見学・活用の提案をいただいた。今後、全小学校において、史跡の見学を校外学習に取り入れられることが可能か課題である。 ○文化財等のPR・情報発信事業 町内への効果的な情報発信方法として、ふれあいプラザさかえロビーを活用した下総龍角寺ミニ展示を開催し、HPの掲載、商店を含めた集客施設へのポスター掲示、SNSの発信を行ったが、来館者の多くは見学していない状況であった。来館者の視点に合わせた理解しやすい情報の発信方法や展示内容を検討する必要がある。 ○ボランティアガイド育成事業 令和4年度点検評価において、有識者より、人材育成の取り組みを進めるようにとの意見をいただき、栄町を愛する女性の会との共催で、房総のむら風土記の丘資料館職員を講師に招き、講演会を開催した際や、10月31日～11月12日にドラムの里で移動展示「龍角寺の瓦」の開催により、ガイドの育成を図ったが、ガイドの実践機会に限られており、イベント当日の他に、アウトプットの機会をつくる必要がある。また、ボランティアガイドを出来る人材が減りつつあることから、新規のサポーターを募集する必要がある。 ○町史編さん事業 町史編さん事業の一環として、「栄町の歴史」の刊行に向け、町の財政状況を勘案し、新たな財源確保の検討が必要である。また、歴史的公文書の整理保存では、専門職員の人員確保と、収納施設が未整備であることが課題である。地域史料の整理保存作業に対応できる人材も不足しており、今年度は、新たな人材が1名増えたが、引き続き、人材確保を進めていく必要がある。 ○龍角寺古墳群・岩屋古墳保存活用計画策定事業 令和4年度点検評価において、有識者から観光資産としての活用が求められていることを踏まえ、龍角寺古墳群・岩屋古墳の保存活用計画の策定準備を進めている。今後は、観光部局など関係各課と調整し、有効な活用方針を検討することが必要である。
	今後の取組	○文化財等展示・公開事業 ・安食台小学校へ、史跡見学を校外学習に組み入れていただくよう働きかけをしていく。 ・下総龍角寺ミニ展示の巡回を行い、栄町の歴史ある龍角寺のことを町内の多くの子ども達に知ってもらう機会を創出していく。 ○文化財等のPR・情報発信事業 ・町部局と連携しSNS等を活用した、見に来たくなる分かりやすい情報発信も積極的に行っていく。 ・ふれプラロビー展示の内容を町HPへ掲載することで、展示の会期後も展示を学べる環境を作っていく。 ○ボランティアガイド育成事業 ・今後もインプットの機会として講演会の開催や、房総のむら考古学講座への参加の呼びかけ、資料館が令和5年度に作成した展示図録を副読本とした研修会を行っていく。 ・アウトプットの場として、校外学習や、公開事業などの前に実践の場をつくる。ボランティアガイドの人材が減りつつあることから、ポスターを作成し、新規サポーターを募集していく。 ○町史編さん事業 ・栄町の歴史の刊行に向け、クラウドファンディング等の活用を検討していく。 ・公文書資料等の収納場所が未整備であることから、収納施設の整備を進める。地域史料の整理保存作業に対応できる文化財サポーターの確保を進めていく。 ○龍角寺古墳群・岩屋古墳保存活用計画策定事業 ・観光部局や房総のむらとの協議を行い、素案を作成していく。

5. 学識経験者の意見

◎「特色のある学校づくりの支援」について

- ・中学生の海外派遣事業がなくなったというのが残念かなと思いました。現地で様々な体験があるということが大事だと思いますので、ゆくゆく再開できるような状況になればよいと思います。
- ・わくドラは、保護者の方の期待感や信頼感が非常に厚く、目標は十分に達成したと考えてよろしいかと思います。沢山の児童生徒が参加して欲しいと思うので、児童生徒がいかに参加できる環境にできるかどうかということを検討していただきたいと思います。
- ・学校運営協議会の研修会を開いていただいたのですが、それにより他校との繋がりができました。研修会で各校の様子や問題点等の意見交換ができて貴重な経験になったので、毎年続けていただければよいと思いました。

◎「きめ細かな学校教育の推進」について

- ・教員アシスタント職員の方が教員の働き方改革に随分寄与していると感じてます。
- ・児童生徒のアンケート結果、小学生は目標値を上回っているが、中学生になると目標値が落ちている。中学生は思春期ということもあり、なかなか自分を褒めたりしないので、小学生と中学生の達成度を2で割って評価は「A：目標を達成」でよいと思いました。
- ・放課後教室のように、異学年と一緒に遊べる環境により周りの子を面倒みられるような環境ができるとよいと思いました。

◎「学力向上の推進」について

- ・学力テストの結果が県平均を上回るものが少なかったということですが、県平均にかなり肉薄している学年教科があるので、それらをどうやって越していくかというのは、これから苦労されると思います。その点をどうやって底上げしていくか、全体的な底上げを考えてやっていただけるとだいぶ変わってくるかと思います。その辺が今後の課題かと思いますので、その辺りに力を入れていただければと思います。
- ・家庭でも少しの時間でよいので、子供とコミュニケーションをとるためにも、宿題をみてあげるなどの努力をしてもらうよう、教育委員会からも投げかけてもらいたいと思います。

◎「教育行政の推進」について

- ・スクールバスのドライバーさんの高齢化が気になります。また、北辺田地区や酒直地区の子達はバスがないと通学できないので、お金がかかることだと思いますが、修理・修繕に予算を付けていただきたいと思います。

- ・幼稚園の保育料の助成や、第3子以降の給食費無償化など、児童の就学や育成に手厚い支援があり、評価はAでよいと思います。

◎「教職員の働き方改革の推進」について

- ・中学校の部活動地域移行についてですが、スポーツ協会の専門部の方の技術指導も考えてみてはいかがでしょうか。先生自体が地域の方ではないので、地域の方が何をしているかわからないと思います。なので、間を取り持ってくれる方がいれば中学校の顧問の先生も心強いと思うので、そのような部署を作ってもらって、担当の方を作ってもらえば、中学校の部活動のお手伝いができるのでよいと思います。

◎教育施設の充実

- ・各学校の施設にはそれに対して適切な修繕工事が実施されており、児童生徒の安全安心な学習環境が伴っていると感じます。今後も施設の維持管理に力を注いでいただきたいと思います。
- ・安食小学校のプール撤去後の、登り棒とオブジェは撤去できないのでしょうか。あれを撤去するともっと校庭がもっと広く遊べるのにと思いました。

◎給食施設の充実

- ・老朽化した給食センターや冷蔵庫等の設備を修理していくための費用がかかるのではないかと思います。子供たちのためにどうするかということを考えていかないとだめだと思いますので、新しい給食センターの建替えを早く進めてもらいたいと強く要望します。

◎ICT教育及びICT化の推進

- ・タブレットを使った授業数が目標を大きく上回っていてびっくりしました。使用回数のカウントの仕方がよくないと思うので、カウントの仕方を変更したらよいかと思いました。
- ・端末については、自分が使用しているものが2年目くらいで壊れました。メーカーは、大体4年くらいと考えてほしいと言っていました。端末や設備の交換費用もかなり負担になってくるかとは思いますが、世の中に出たときに必須となるものなので欠かせないことだと思います。

◎生涯学習機会の充実

- ・サークル登録者数の減少がありますが、これから増やしていただくための事業ということを考えていただけたらと思います。
- ・図書室の貸出者数ですが、実質これだと図書室を利用するしないというような形になっているような気がします。これを利用者ではなく

貸出冊数にしたらいかなと思いました。

◎地域教育力の充実

- ・評価の理由が「ドラム自然楽校」のアンケート結果だけを反映しているように見えました。この言葉は直された方がよいと思います。
- ・生涯学習の分野は、事業の幅も非常に広いところもありまして、大変重要な事業分野であると考えております。今後も様々な事業を展開してその分野に力を入れていただきたいなと思っています。特に人材発掘ということには、今後の色んな活動の幅にも影響してくるので、その辺に特に力を入れていただけたらありがたいと思います。
- ・I I K S も一般の保護者の方にも出ていただけるような話題性のあるテーマを考えてもらって、もっと参加者を増やしていただいた方がよいかなと思いました。

◎生涯学習施設の充実

- ・ふれあいプラザさかえを利用してもらえるような秘策をどんどん考えてもらいたいと思います。また、利用しやすい環境を作っていただいて、目標値に近づくようにしていただきたいと思います。
- ・災害時の避難所となっていることから、そのための整備も必要になると思います。災害ボランティアセンターでふれあいプラザさかえを使わせていただくことになっているので、その話もこれから詰めていきたいと思いました。

◎スポーツ環境づくりの推進

- ・施設の利用者が増えているなか、住民ニーズを掘り起こしていかないと、それをどのように展開していくか、それが町民総スポーツに向けての鍵になるような気がします。スポーツが町民の楽しみと健康に寄与する部分が非常に大きいので、医療費の削減にもなるのかなと思いますし、その辺は少し力を入れてやっていただきたいと思います。
- ・リバーサイドドラムマラソンですが、フルマラソンを走る方からは興味が薄れると思います。また、走る方に何か楽しみがあるなど、その辺を改善するとよいと思いました。
- ・高齢者スポーツについてですが、足がなくて参加できない高齢者もいらっしゃると思うので、ぜひともドラムバスの活用方法や時間などのアピールも連携して、もっとスポーツをされる高齢の方が増えるとういかなと思います。

◎芸術文化活動への支援

- ・コロナ禍での活動縮退があり文化祭の参加団体数が目標値が達成していなかったということですが、まずサークル数が増やすためには活動者を増やさないといけないんじゃないかと考えております。団体自体の活動意欲を増す講座開催により、参加者がそれを伝えていく

のが良いかと思います。

- ・目標値の達成度を『団体数』だけでなく『参加人数』の二本立てにしていかがでしょうか。

◎文化財等の保護と活用

- ・栄町にある埋蔵文化財等を、場所を作って一つに集められないかなと思います。ただ、あの量を文化財担当の方が色んな事業をしたりしながらそれを調査することになると、かなり人数的には少ないだろうな、やりきれないだろうなと、非常に強く感じました。町としても大変重要であろうし、それをやる技術を持った人を増やしていかないということで、一般の町民の中で興味がある人にそういうことをやってもらうような講座を開催するとか、その技術を持った人を雇ってもらってもらうなどし、十分に活用できたら栄町は別の見方が周囲からあるのかなと思いました。
- ・また、文化財を常設して展示しておけるような場所があったらよいなと思いました。ふれあいプラザさかえに展示してありますが、壁際に展示してあるので、壁際ではなく中央に近いところにあるとよいと思います。
- ・埋蔵文化財の保存場所である旧斎場、安食台小プレハブの2階、安食小下の建物が、雨漏りで困っています。大切な文化財の適切な保存方法をお願いしたいです。
- ・子供たちに、栄っこ宣言の『ふるさと栄を誇りましょう』とあるように、ふるさと栄がどんな町なんだよとわかってもらうために色んなものを展示してもらいたいと思います。8月から9月中旬くらいに展示していた「龍角寺の七不思議」のパネルなどは、カラフルでわかりやすく書いてあり、よい展示だと思いました。また、町外の方も展示をみて龍角寺に行きたくなったとのことだったので、頻繁には難しいと思いますが、時々飾ってアピールをしてもらえたらよいなと思いました。

6. 学識経験者の意見を受けて今後の取組について

◎「特色のある学校づくりの支援」について

- ・現地を訪問し、直接体験することは児童生徒にとって意義深いことであります。経済状況などの社会情勢が回復した際には、費用負担の面などに考慮しながら再開について検討を行っていきます。異文化交流の学習機会として、オンラインによる海外学校等の交流や訪日教育旅行による学校交流を積極的に受け入れていくように努めてまいります。
- ・わくわくドラムについては、児童生徒の学習機会の提供および学校での学習内容の補完を主な目的としながら、参加する児童生徒が目的意識をもって参加できるよう「内容の明確化」「魅力ある講座の開設の工夫」などを行ってまいります。

◎「きめ細かな学校教育の推進」について

- ・教職員の働き方の最も重要な目的である「児童生徒と向き合う時間の確保」がさらに実感できるよう教員アシスタント職員の効果的な活用方法について、各学校の事例を共有し、活用の充実を図ってまいります。
- ・児童生徒の「自己肯定感」「自己有用感」をはぐくむ教育活動を推進するため、学校支援教員による個に応じた学習支援の充実や不登校等で困り感のある児童生徒、保護者、家庭に対する教育支援センターを中心とした支援の充実を図ってまいります。

◎「学力向上の推進」について

- ・県標準学力テストや全国学力学習状況調査の結果を分析し、全体的な学力の底上げに向けた学習指導の工夫改善を進めることができるよう「小中連携プロジェクト会議」を中心に研究・研修の充実を図ってまいります。
- ・ICTを活用した授業改善や家庭学習の工夫を行い、児童生徒が意欲的に学習に取り組むことができる環境づくりを推進してまいります。
- ・家庭と連携し、児童生徒の基本的な生活習慣の確立が図られるよう、啓発資料の配布や家庭教育学級による周知などに積極的に取り組んでまいります。

◎「教育行政の推進」について

- ・児童生徒が安全、安心な学校生活を送ることができるよう法令、要綱等に基づいて適正な事務処理を継続してまいります。
- ・給食費無償化事業については、自治体による格差が見られるようになっていきます。国や県に対して居住地による教育格差とならないよう引き続き要望してまいります。

◎「教職員の働き方改革の推進」について

- ・ICTを効率的、効果的に活用できるよう計画的に整備を進め、さらなる働き方改革の充実を推進してまいります。
- ・部活動地域移行については、令和7年度中に令和8年度以降の方向性が打ち出せるよう、「栄町部活動推進協議会」を中心に、栄町スポーツ協会等の各種団体との連携協力を含めて検討を進めてまいります。

◎教育施設の充実

- ・今後も学校での日常点検を行い、学校と連携を図ることで危険個所の早期発見、早期対応に努めてまいります。
- ・安食小学校のプール撤去後の、登り棒とオブジェは撤去できないのでしょうか。ですが、100m走が出来る広いグラウンドが欲しいという児童の要望に応えるため、限られた財源の中で実施したものでございます。今後登り棒の老朽化、またオブジェは卒業制作品になりますので、危険な状況になれば、関係者と協議の上撤去を検討していきたいと思っております。

◎給食施設の充実

- ・老朽化が著しいので、今後も施設管理には十分に注視しながら、給食センター機能の維持保全を図るため、必要な修繕及び延命措置を迅速に行って参ります。
- ・給食センターの建替えにつきましては、令和2年に策定した「栄町学校給食センター施設整備計画」で示されている、給食センターの施設規模や敷地面積の再検証が必要と考えております。

給食センターの施設規模を再検証するためには、将来の町児童・生徒数の推計を行い、適切な給食の調理能力を定める必要があることから、町総合戦略や町の人口ビジョンなどの町計画との整合が必要となります。

さらに、令和5年6月に内閣府及び文部科学省より連名で「避難所における適切な食事の確保のための学校給食センターの活用について」の通知が示されるなど、給食センターの多機能化などを含め、施設規模を算定し、建設用地の再検証を行い、早い時期に建替えができるよう取り組んでいきたいと考えております。

◎ICT教育及びICT化の推進

- ・ICTを活用した授業については、多くの場面で取り入れられるようになっていきます。今後は、「思考力・判断力・表現力」を育成する場面での活用が多く取り入れられ学力の向上に資する取り組みの充実を図ってまいります。
- ・令和8年度の児童生徒の端末整備に向け、PC環境の整備を計画的に進めてまいります。

◎生涯学習機会の充実

- ・サークル登録数の減少の改善については、展示スペースの活用や登録サークルの広報掲載などを引き続き行い、1年先の先行予約や、文化祭に無料で参加できることなど、登録し学びたいような内容をアピールしてまいります。また、サークル連絡会役員会での協議や、文化祭の一般参加の団体に登録を案内してまいります。
- ・「図書貸出し者数」について「図書室の貸出冊数にしたらよい」とのご意見がありましたが、利用者の増加を目的としているため、成果指標として「図書貸出し者数」が適当であると考えます。

◎地域教育力の充実

- ・ご意見のありました、「評価の理由が「ドラム自然楽校」のアンケート結果だけを反映しているように見えました」につきましては、ドラム自然楽校や放課後子ども教室などの指標を用いていることから、「ドラム自然楽校等」へ変更いたします。
- 人材発掘については、各イベントや関係団体と協力し、新たな人材の確保に努めてまいります。

- ・ I I K Sについては、参加者アンケートにより要望の多い内容を考慮し、テーマを決めているが話題性の高い内容も組み込みます。また、各学校 P T A への呼びかけにより多くの参加を促してまいります。

◎生涯学習施設の充実

- ・ふれあいプラザさかえの利用促進については、先進的な取組をしている各市町からノウハウを習得し、事業の企画や実施について、検討してまいります。
- ・公共施設の複合利用の検討など、防災拠点となるふれあいプラザさかえの機能向上のため、関係各課と協議し、整備を進めてまいります。

◎スポーツ環境づくりの推進

- ・町民がスポーツを楽しみ健康に寄与できる様な計画づくりを検討してまいります。
- ・軽スポーツ教室等のイベントに参加された方に対しアンケートを実施するなど、住民ニーズの把握に努めたいと考えております。
- ・リバーサイドさかえドラムマラソンについては、フルマラソンの実施が物理的に難しい状態にあります。そのため、郡内の市町でハーフマラソンを実施している大会が当町のみであることから、その独自性をアピールすることにより参加者の増加につなげていきたいと考えております。
- ・高齢者の方のスポーツ教室の参加については、軽スポーツ教室を安食小学校体育館だけでなく他の小学校・町民体育館で実施することにより、参加がしやすい状況を作っていくよう努めてまいります。

◎芸術文化活動への支援

- ・文化祭参加団体となるサークル数増加のため、展示スペースの活用や登録サークルの広報掲載などを引き続き行い、1年先の先行予約や、文化祭に無料で参加できることなど、登録したくなるような内容をアピールしてまいります。また、併せて、加入促進につながる内容の検討のため、サークル連絡会役員会での協議や、文化祭の一般参加の団体に登録を案内してまいります。
- ・目標値の達成度については、「参加人数」を追加した際に、複数のサークルに所属している人や所属していても当日は参加できない人などがいるため、集計が難しく、目標値としての機能させるのが難しい状況になります。

◎文化財等の保護と活用

- ・一部の考古資料の整理は、埋蔵文化財センターに毎年委託して進めており、古文書類については調査専門委員による記録作業や、ボランティアによる整理作業、古文書学習会による筆耕作業を進めております。今後は、専門技術をもった人材をどのように確保していくか検討するとともに、文化財の整理を速めていく工夫と努力を重ね、町民の方の目に触れられるよう文化財の活用を図ってまいります。

- ・埋蔵文化財や歴史的公文書、古文書類の保存場所は、なるべく一施設へ集約していくことを目指しております。現在、公共施設の複合利用として、旧酒直小学校および旧北辺田小学校校舎の利活用について検討しておるところであり、文化財関係の資料群の保管場所として、旧北辺田小学校を利活用の検討を図ってまいります。
- ・ふれあいプラザ1階ロビーでの文化財関連の展示については、有料で使用するお客様の都合を最優先しながら実施しているところです。今後は、2週間程度に期間を区切るなどして、ロビー中央での展示を行い、来館者の注意を集められるように工夫をしてまいります。

7. 本町教育行政が取り組む方向について

教育長より

この度、学識経験者お二方による教育委員会への「点検と評価」におきまして、全14施策へのご高見を頂戴し、誠にありがとうございました。

今回は、栄町第5次総合計画・後期基本計画の初年度としての令和5年度の事務事業を点検・評価していただくことになりました。そこで、区切りのよい今回から従来の様式を見易く改善したところです。

さて、令和5年度は、JETプログラム（ALT：アシスタント・ランゲージ・ティーチャーの派遣）の切り替えにより、二学期からALT3名体制から1名増員がかない、4名体制となりました。そこで、栄中学校2名体制として、中学の全英語科で日本人教諭とのT・T.（ティーム・ティーチング）が可能となりました。そのため、ネイティブからのイングリッシュ・シャワーを存分に浴びて、中学生の英語力が培われていくことになろうかと考えます。

しかしながら、これまで進めてきました「海外派遣事業」は、令和5年度が最終となってしまいました。多くの中学生にとっては、3年間のうちに、14名の派遣団に合格して、オーストラリアにホームステイすることが希望の一つにもなっていたことを思うと、断腸の思いでもあります。逆に、子供たちにとっては、オーストラリア渡航への大きな夢ができたとも考えます。その夢を実現するために、精進していく子供たちの姿が見えるようです。

そのような中、これまで、多大なるご支援を頂戴してきました大沢会長を始めとする日本食研の皆様に、この場をお借りし厚く感謝を申し上げます。

なお、成果指標として触れておりませんが、国全体の教育課題として、令和4年度244,940名から、令和5年度には299,048名へと5万名増えたという不登校児童生徒の衝撃的な数値が発表されてきました。令和4年度末の2月県議会では、議員発議の「不登校児童生徒の教育機会の確保を支援する条例」が成立し、令和5年4月から施行されております。これにより、県教委では、令和5年末に対象児童生徒への直接アンケート調査を行い、これまでの「問題行動調査」の「教職員との関係をめぐる問題1.2%」から、直接調査では「先生のことで気になることがあった27.9%」となり、教職員と不登校児童生徒との回答の乖離が判明してきています。

こうして昨年に引用しましたように、安食小・布鎌小創立時の『学制』に謳われていた「邑に不学の戸なく、家に不学の人なからしめん事を期す」を引き続き本町教育委員会のテーマとしてまいりたいと考えます。

最後に, 学識経験者お二方からご指摘いただいたご高見を, 学校教育・社会教育にて練りこみ, よりよい栄教育へとつなげてまいる所存であります。